

「多言語重層構造をなすインド文学史の先端的分析法と新記述（インド文学史科研）」

第1回 運営委員会 記録

(2010年2月27日 10:30-13:00 東外大本郷サテライト4階セミナー室)

出席者：坂田貞二、臼田雅之、高橋明、水野善文（メール参加：松村耕光、横地優子）

前回の全体研究会（2006.12.19）での決定事項を受けて、

1. 論集について 毎年1号ずつ（1-4号）＜H22に1号必ず出す（600部？）＞

＜1＞共通テーマ大枠組立と編集担当者の選定

論集の4本柱

A せめぎあう文学伝統 : 編集担当者＝高橋明（まとめ役）臼田、坂田

- 1) インド諸地方語の地平からみたインド人およびインド系移民の英語文学
- 2) 地方と汎インド（地方語とリングア・フランカ＜Skt、ペルシア語、英語＞）
- 3) 言語、文学とアイデンティティ（自己認識）
- 4) 古典（サンスクリット）作品と近現代語訳

B 文学の場（創作・享受・伝承）：編集担当者＝井坂（まとめ役）（←依頼、臼田）臼田、坂田

- 1) 巷間、宗派、宮廷
- 2) 媒体、メディア：雑誌、新聞、小冊子
- 3) 口承と書承
- 4) 文芸サークル、ムシャイラー、出版社、
- 5) メディアとしての音楽、舞踊
- 6) メディアとしての教科書、挿画、漫画

C 言語表現技法：編集担当者＝横地（まとめ役）（←依頼、水野）臼田、坂田

- 1) 韻律
- 2) ラサ論
- 3) 比喩表現
- 4) ことわざ、なぞなぞ、ことば遊戯
- 5) 表現方法としての音楽、舞踊、
- 6) 表現方法としての漫画、挿画

D 文学と歴史的事件：編集担当者＝萩田（まとめ役）臼田、坂田

< 2 >以上をメンバーに連絡し、次回研究会（予定：5月22日土曜日）までに、各人が何れのテーマ項目（複数可）で執筆するか、論題とアブストラクトを持ち寄る。年度毎の発行には 各年度12月20日を原稿締め切りとする。

< 3 >査読の証拠として編集委員会規約 <出版物の末尾に> (by 臼田)

2. 翻訳叢書について

- 1) 逐次受け付け、どんどん出す。まずは、案として、安永有希（修論から『チャンドラカーンター』）、藤山覚一郎『?（サンスクリット文学）』ら
- 2) 詩集、短編集なども、逐次。

3. 論集、翻訳叢書とも、メンバー外からの投稿も積極的に受け付ける。募集はメンバーからの口コミによる。：次回研究会で周知

4. NIHUの現代インド地域研究プログラム（以下、拠点研究）とのからみで

1) 6月下旬開催予定の大阪大学に於けるヒンディー語教育シンポジウムは拠点研究との共催として、国内研究者の出張旅費を支給する。その場合、テーマの拡充についてインド側と今後、交渉する。（高橋）

2) 拠点の成果刊行物として想定されるもの：

・ハンドブック? <南アジア文学への誘い：ここが面白い>+作品ハイライト
(和訳された作品のビブリオも)

・インド人の研究の紹介（英語論文だけでは良く分からないもの）（若手中心に作業してもらおう）

< 科学研究の副産物として出せると、精神的負担は少ない >

たとえば、

・くわしい年表 →リファレンス

・科研で一度刊行した、詩集、短編集のうち現代のものだけ別途出版する。

◎未決

・『花束』（最終目標・核心）の作業工程